

関西実験動物研究会の歩み

阿部敏男

関西実験動物研究会 幹事長

関西実験動物研究会は平成 26 年 3 月 16 日に創立 30 周年を迎えます。本研究会は、故山田淳三京都大学名誉教授の呼びかけとそのお考えを支援する人達のご尽力で、昭和 59 年（1984 年）3 月に「関西地区において実験動物学ならびに関係諸科学の発達を図る事」を目的として発足しました。遡ること昭和 53 年 6 月、山田先生は京都大学において本研究会の前身となる「実験動物セミナー」を始められ、昭和 55 年 3 月にはさらに「関西実験動物集談会」へと拡大されて現在の「関西実験動物研究会」の礎を築かれました。発起人名簿 63 名には、当時、関西圏において実験動物あるいは動物実験に深く関心を抱かれていた大学や企業の諸氏が名を連ねられています。昭和 53 年に始まる源流から起算して 36 年有余、研究会の流れは、宮脇宏彰 第二代会長（当時 武田薬品工業（株））、芹川忠夫 第三代会長（現会長、京都大学名誉教授）へと引き継がれ、いつも変わらぬ会員のご支援のもと、研究分野の枠を超え、実験動物と動物実験に関心のある方々の集まりの場、また知識と情報の交換の場として研究・業務の発展と科学の進展に寄与すべく活動が継続されています。

平成 25 年 10 月現在の会員数は、個人会員 209 名、維持会員 40 団体であり、大学関係、公立研究機関、製薬企業ならびに実験動物関連企業等々、様々な領域の皆様からご参加をいただいています。役員として評議員、幹事（庶務・会計担当、集会担当、会誌担当）および監事が構成され、3 年毎に役員人事が行われています。これまでの歴代の会長のリーダーシップのもと、幹事の皆さんが中心となって①学術集会（研究会）の開催、②会誌の発行、③関係諸機関・諸学会との情報交換・連絡、④会員相互の連絡、⑤その他必要と認められる事業の運営がなされています。

学術集会（研究会）の企画は、会員からの要望を踏まえて主に集会担当があたっていますが、その話題は「研究」、「教育」、「動物実験・法規制」、「海外情報」等に分類されます。研究会は毎年 4 回（3 月、6 月、9 月、12 月）、京都・大阪・周辺関西圏で開催されており、中でも 12 月には会員の発表と懇親・忘年会が企画され、今回で第 120 回を迎えます。宮脇会長の時代に「維持会員ニュース」のセッションが開始され、また芹川会長の時代には研究会毎にテーマ名が設けられました。これまで中断することなく年 4 回開催されている研究会は国内においても類がなく、これも会員の皆様のご支援とご鞭撻に依拠するところです。また、会誌「関西実験動物研究会」が当該年度の集大成版として年 1 回発行され、研究会の講演・発表内容、評議員会、総会、幹事会等の開催記録や会務が掲載されています。

本発表では、研究会の活動状況を早足に振り返り、これまでご尽力された諸先輩・同僚、さらには記念大会や関連行事等々に思いを馳せながら関西実験動物研究会の歩みについて紹介させていただきます。